

## 「万世大路」土木学会選奨土木遺産認定記念フォーラム(福島市)～次世代へつなぐ～報告

大滝会特別会員(万世大路研究会幹事) 鹿摩 貞男

平成 24 年 10 月 6 日、万世大路は土木学会選奨土木遺産に認定されました。その日、米沢市において記念フォーラムが開催されたところです。



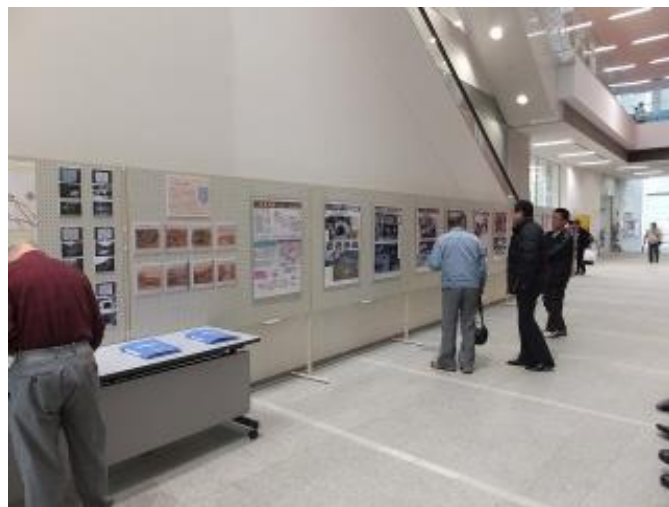
フォーラム会場福島市こむこむ

今年、平成 25 年 10 月 26 日には、福島市においても記念フォーラムが開催されたので報告いたします。開催場所は福島駅前の福島市こむこむ(わいわいホール)で、時間は午後 2 時から 5 時までの予定でしたが、会場からの発言もあってパネルディスカッションが盛り上がり時間を延長して 5 時半に終了しました。当日は 150 名ほどの参加があり、大滝会木村義吉会長がパネリストとして参加したほか 12 名の会員が熱心に聴講しました。

また、木村会長の属する飯坂町史跡保存会からも 4 名の方が参加しておられました。



熱心に聴講する大滝会の皆さん



会場の万世大路パネル展も好評。昭和初期の渡辺家(旧中屋旅館)の写真の前で談笑する渡辺正義大滝会副会長と阿部公一万世大路研究会会長。

### (1)「万世大路」選奨土木遺産認定授与式

授与式に先立ち主催者を代表して、土木学会選奨土木遺産「万世大路」認定記念事業実行委員会田畑實会長から挨拶、福島市長(代理大槻和正建設部長)から祝辞がありました。



フォーラム開会(司会:福島県東北事務所高橋主査)



主催者を代表して、土木学会選奨土木遺産「万世大路」認定記念事業実行委員会田畑實会長から挨拶



福島市長(代理大槻和正建設部長)から祝辞



後藤光亀東北大学大学院准教授(土木学会東北支部選考委員)から選定内容の説明

次に後藤光亀東北大学大学院准教授（土木学会東北支部選考委員）から選定内容の説明がありました。その中で後藤准教授は、万世大路の土木遺産受賞理由について次のように述べています。

「万世大路は、明治・昭和期の当時の先端技術を駆使し、福島・山形両県の物流並びに人の交流と絆を育んだ歴史的な地域遺産である。」

次いで、公益社団法人土木学会小野武彦会長代理、知野泰明土木学会東北支部選考委員（日本大学工学部教授）から土木遺産福島県側代表木村義吉大滝会会長に認定証の授与がおこなわれました。また阿部公一土木学会東北支部選考委員（万世大路研究会会長、東日本高速道路株（NEXCO 東日本）東北支社副社長）から大滝会高野英治副会長に賞牌が授与されました。



土木学会小野武彦会長(代理日本大学工学部知野泰明教授)から土木遺産福島県側代表木村義吉大滝会長に認定証、阿部公一土木学会東北支部選考委員から大滝会高野英治副会長に賞牌が授与



会場に認定証と賞牌を披露する木村会長と高野副会長

## (2) 基調講演 『万世大路へつなぐ道』

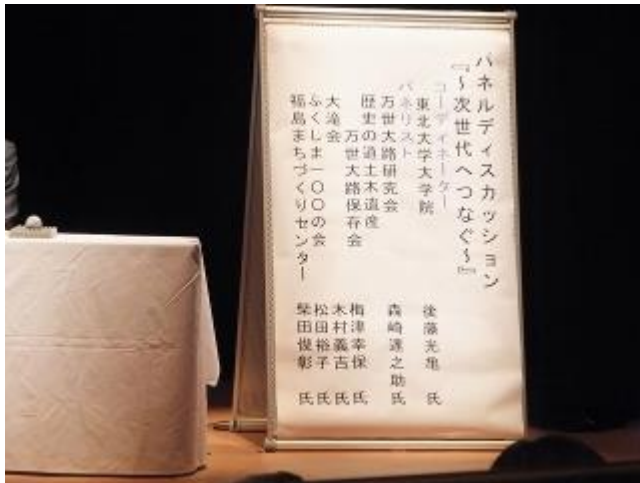
(株) 福島まちづくりセンター常務取締役柴田俊彰氏により基調講演がおこなわれました。万世大路が開通するまで、福島と米沢との交流は米沢街道(福島街道、板谷街道)が使用されておりました。講演ではその歴史や運ばれたもの、どのようなルートを通っていたのかなど、大変興味深い話題提供がありました。



基調講演『万世大路へつなぐ道』(株) 福島市まちづくりセンター柴田俊彰氏

## (3) パネルディスカッション

パネルディスカッションは、東北大学大学院後藤光亀准教授がコーディネーターとなり下記のパネリストの方々がそれぞれの分野での報告をおこないました。後藤准教授からは、土木遺産を継承し地域づくりにどう生かしていくかとの観点でパワーポイントを使って最初に報告がありました。



パネルディスカッション『～次世代へつなぐ～』



パネルディスカッション『～次世代へつなぐ～』  
コーディネーター後藤光亀東北大学大学院准教授



パネリスト左側「万世大路研究会幹事」森崎達之助氏、  
右側「歴史の道土木遺産万世大路保存会副会長」梅津幸保氏



パネリスト左側「大滝会会長」木村義吉氏、  
右側「ふくしま100の会(福島市文化財ボランティア)  
副会長」松田裕子氏(右端)。

各パネリストの発言（概要）は下記の通りです。

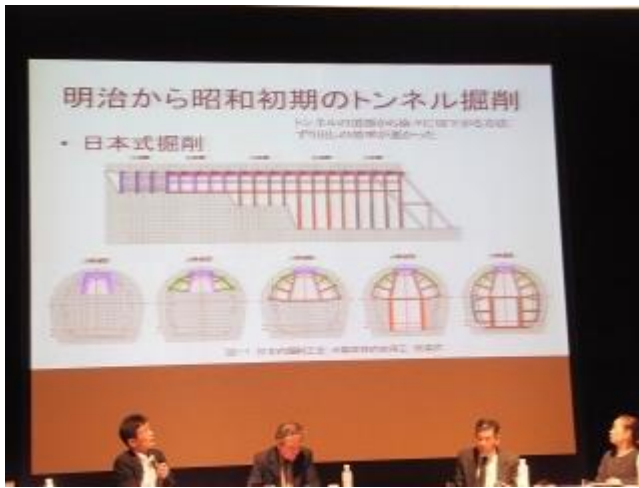
・梅津幸保氏(歴史の道・土木遺産万世大路保存会副会長)

歴史の道・土木遺産万世大路保存会における保存整備活動（機関紙の発行、案内標柱設置や草刈り）、今後の活動方針等が報告されました。また、浜崎木麟の描いた万世大路の絵画の紹介がありました。

右写真

梅津氏は、明治14年10月に浜崎木麟(はまさきもくりん)が描いた万世大路の絵画を紹介する。





・森崎達之助氏(万世大路研究会幹事)

トンネル工事の専門家の立場から、万世大路における明治時代と昭和時代のトンネル工法についての解説をおこないました。また、栗子隧道は落盤しているため現在通行不可能になっているがその状況について報告がありました。

左写真

明治から昭和までのトンネル工法について説明する森崎氏

・木村義吉氏(大滝会会長)

木村会長からはまず大滝集落の歴史を含めての紹介があり、廃村前後の大滝会発足当時の活動状況（記録誌の発刊、記念碑建立等）などについて報告しました。また、その後の大滝会の活動状況（各種行事、記念の集会、草刈り、HPの紹介）等についても発言があり、今後の活動方針・構想（記念碑や渡辺家の保存、遊歩道の整備）について紹介がありました。

旧中屋旅館（渡辺家）の間取りについても報告があり反響を呼びました。



「大滝会会長」木村義吉氏：大滝集落の栄枯盛衰と現状 今後の活動について発言する



発言する木村大滝会会長



大滝集落の歴史を報告



大滝集落の歴史を報告



旧中屋(渡辺家)を紹介する



大滝会の現状と活動報告



大滝会の今後の活動について発言



会場では栗子国道改築工事(昭和41年5月完成栗子ハイウェイ)の工事記録映画も上映。画面は、当時トンネ1本案も検討されたことを示している(最終的には現行の東西栗子トンネル2本案を採用)

・松田裕子氏(ふくしま 100 の会(福島市文化財ボランティア)副会長)

四季折々の美しい自然や壮大な土木構造物を合わせ持つ万世大路の魅力について、女性の立場から発言がありました。また、今後とも万世大路を楽しむために、案内板の設置や案内人の育成などについて提案がありました。



松田裕子氏(右端)、ふくしま 100 の会の活動報告や万世大路の今後のあり方について提案する。



発言する「ふくしま 100 の会(福島市文化財ボランティア)副会長」松田裕子氏

以上のほか、万世大路の整備などについて会場から要望があり（高野副会長等）、国土交通省、福島県、福島市の担当者から前向きな回答がされております。

最後にコーディネーターの後藤準教授から土木遺産を活用した地域づくりの提案があり、本日のフォーラムが終了いたしました。



会場から発言する大滝会 高野副会長



熱心に聴講する市民



土木学会選奨土木遺産認定証



土木学会選奨土木遺産 賞牌

完